

多摩市議会議員 政党や特定団体の支援は一切受けず完全無所属で活動中

岩永ひさか Report

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>

発行/岩永ひさかと夢・まち会議 Phone (留守番電話専用) / 042-371-0763



そして、建替えるだけに留まらず、かかる費用は考慮されているのか。

最後にやっぱり気になるのは建替え費用の問題ですね。现阶段の試算では約123億円と示されていますが、今、多摩市がやろうとしている駅前拠点の充実を含めた金額ではありません。もちろん、そしてまた、人件費や物価の高騰による建設費の大幅な増額は考えておかなければなりません。

それ以外にもオンライン対応など、いわゆるDX（デジタルトランスフォーメーション）も視野に入れても、総額をどう見立てているのでしょうか。それらも、まだ具体的ではありません。もちろん、備品類の新調もあります。



Policy & Style

公平公正な姿勢！

市民全体に向けた活動を心がけ、個人後援会は作りません。

政策づくりが議員の仕事！

議員としての専門性を磨き、市民の自治力の向上をバックアップします。

話し合いが大切！

意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「第3の道」を見つける努力をします。

PROFILE

1977年 兵庫県神戸市生まれ 1989年 北諏訪小学校卒
1995年 桐朋女子中高（普通科）卒 1999年 中央大学法学部政治学科卒
2006年 明治大学大学院ガバナンス研究科修了
大学卒業後金融機関（旧中小企業金融公庫）に3年間勤務したのち、
2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙にて当選して以後、6回当選。
現在7期目。諏訪2丁目在住 家族/娘19歳
総務常任委員会、多摩市役所本庁舎建替基本計画特別委員会



Phone & Fax

☎: 042-371-0763

いたずら、迷惑電話が多く、留守番電話専用です。

お返事が必要な場合には、お名前、ご用件と希望する連絡先等を残していただければ幸いです。

mail: hisaka_box@yahoo.co.jp

その本庁舎整備計画には、多くの機能が盛り込まれますが、実現するための職員育成や縦割り行政組織の改革をどう進めていくのかは不透明であり、負の施設の積み増しにならないよう取り組まねばならないと考えています。

今はまだ基本計画の策定レベルですが、行政から議会にも「骨子案を策定するためにまずは議論をとりまとめてほしい」との依頼がされており、特別委員会でも期限内に議論の集約に向け取り組んでいます。議会における議論も、行政からより具体的な情報が示されなければ、実りある議論ができないと危惧しています。

市民の皆さんにも、いずれ、骨子案などが示されていくことと思いますが、より多くの皆さんに関心をお寄せいただき、ご意見お寄せいただけると幸いです。

また、新たな一年がはじまる。

政治への不信感の高まりは天井知らず。昨年を振り返っても、政治に対する信頼を取り戻すことが何よりもまず優先すべきことだと感じています。メディア報道でも時折、地方議会や地方議員のことが取り上げられます。しかし、多くは国政にまつわることが多いと思います。

そんな中、「政治家なんて…」 「議員なんてどうせ」とマイナスのイメージがまん延し、そのことが多摩市の政治や市議会議員にも影響を及ぼしているのではと心配しています。

「政治とカネと」。私の場合は、議員になって以来、自分のできる範囲を欲張らず、活動を続けてきました。例えば、昨年4月の統一選挙や日頃の市議会レポートの発行など、活動費は全て自費で賄っています。

過去、政党等に所属していた時には、公認料をいただくこと等もありましたが、半分以上の議員報酬が政治団体の活動費になっていた時もあります。組織に所属することで仲間が増え、そこで経験してきたことも決して無駄ではなかったと考えます。しかし、市民が参画してこそその政治とは言え、私個人を支持し、応援してくださる一人ひとりの市民に、所属している政党の党員やサポーターになってもらうことや、1枚数万円の政治パーティ券を販売することは相当に困難なことでした。

今は、無所属で活動しており、党員やサポーターの獲得、いわゆる政治パーティ券などのノルマから解放されている分、個人でやっていくことの大変さはあっても、自分で納得しながら取り組める良さがあります。

もちろん、国政や都政とも連携することは必要ですが、一方で、身近な市政は政党などの考え方に縛られず、目の前にある市民の暮らしに主眼を置き、判断していくことが最も必要で大事なことではないかと考えます。それこそが、まさに、「中央」に相對する「地方」であり、地域の自治ではないでしょうか。

「住みたいまちはあなたとつくる」

活動をもっともっと伸ばしていかなければと思っていますが、これからもいねいな対話と政策提案を進めていきたいと考えています。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。



それでも、2029年度(令和11年度)から新しい庁舎を稼働するのですか。

多摩市役所本庁舎建替えの議論が本格化しているものの…。

市議会にも「多摩市役所本庁舎建替基本計画特別委員会」が設置され、11月から議論を進めています。総務常任委員会のメンバーを中心に委員が選出され、岩永ひさかも特別委員会の一委員となりました。

長年懸案事項だった「市役所の位置」について

市役所の現在地については、過去からも様々な意見が存在してきました。かつて、駅前など市民にもアクセスの良い場所への移転も視野に入れ、検討されていましたが、そのタイミングもあったと思いますが、残念ながら、昨年(令和5年)2月に定まった多摩市役所本庁舎建替え基本構想により、「現在地での建替え」が方針として固まり、「基本計画の策定」の議論が進んでいます。

今後、長期的に考えると、人口減少し、市役所の規模も縮小することは想定内と考えていますが、その際には余剰スペースが発生することを考えれば、アクセスの悪い場所からの移転を選択する方が良いと考えてきました。

また、多摩市は「市民と共にまちづくりを進める」ことを重視して取り組んでいます。行政を身近に感じるとともに交流できる市民の「カフェスペース」などが必要であり、利便性の良さは不可欠です。

防災拠点の場所としても、庁舎前の道路の狭さが、災害時の道路の渋滞や建物の倒壊などによる機能発揮に不安が残ります。さらに、基本構想の「建設場所への評価の視点」についても、市民を置き去りにした施設整備に思えてなりません。

残念ながら、今は、財政問題が引き合いに出され、利便性の良い駅前土地を購入することの難しさが説明されていますが、過去には、永山駅前の旧多摩ニュータウン事業本部跡地(現在は多摩市所有。日本医科大学多摩永山病院移転予定用地)が移転先候補地のひとつになっていたこともあり、その時々結論を出しきれず、現在に至っているとも言えますが、あの時、まずはトップが決断をしていたら…と思うことがしばしばあります。

ところで、旧東永山小学校跡地と交換して取得した日本医科大学多摩永山病院移転予定用地では、現在、旧建物解体工事が進んでいます(解体工事は令和6年1月19日に終了予定)。しかし、昨年末時点では病院建替え時期未定、建替え計画内容も具体的に示されていません。病院の老朽化が進み、「今すぐにも建替えなければならぬ」という切羽詰まった状況が説明され、市議会に「土地交換・取得」の判断を迫った時と比べ、建替えスケジュールやその内容は二転三転し、大きく後退していることは、多摩市の重大な懸案事項と捉えています。



また、病院側は多摩市に対し80億円を超える財政支援を要求していますが、それは到底無理な話です。(土地についても無償貸付前提?)

市民の安心、安全な暮らしのためのサービス提供の具体性は? 「駅前に拠点」をつくれば、それで事足りるのか。

さて、今、議会では「現在地」での建替え方針が示され、それに基づく議論が進むわけですが、行政が示している「駅前拠点(聖蹟桜ヶ丘、多摩センター、永山)の充実」と「オンラインの活用(DXの推進)」はどこまで進んでいくのでしょうか。技術革新は日進月歩。多摩市民のマイナンバーカード所持率も75%超えになっており、住民票、印鑑証明書の発行など、わざわざ市役所に足を運ばず、コンビニエンスストアでの発行サービスも可能です。

また、保育園や学童クラブの入所についてもオンライン申請が可能となり、多くの保護者が利用するようになってきました。今後も証明書の発行やサービス申請業務など、こうした対応が増えていくと予想していますし、それは業務の効率化、労働人口の減少を考えても当然、取り組まねばならないことと思っています。



日医大多摩永山病院移転予定用地

しかし、市役所の業務とはそれだけに留まらず、むしろ重要なのは「市民相談」ではないかと思えます。市役所の業務は私たちの暮らしに大きく関わり、必要不可欠なものばかり。福祉に関わる問題のみならず、公園、道路、ゴミなど、相談と一口で言ってもその内容は千差万別、多種多様です。

だからこそ、(みんなのお金を出した)税金で賄われているわけですが、これからは、市民サービスの根幹となる安心安全な暮らしの困りごとの解決のため、多分野に精通した相談員を配置し、きめ細かな課題解決に動くのが必要な行政…顔の見える関係が築かれ、信頼を得た直接のコミュニケーションが成り立つ相談窓口が、市民が求めるものではないかと考えています。



現在、駅前拠点での相談ブース設置で本庁舎をオンラインでつないだ相談の仕組みも含めた検討が示され、相談内容によっては、本庁舎での相談を想定しているようですが、それを一旦、受け止めるとしても、そもそも、現在の聖蹟桜ヶ丘、多摩センターそれぞれの出張所、そして、永山(ベルブ永山を想定?)にどのようにスペースを確保するのか、また、多摩センター出張所は賃貸物件をそのまま使用するのかなど、正直、その先の議論に具体性が欠け、非常にちぐはぐな印象を受けています。この議論が場当たりで終わってしまうのではないかと不安を感じます。